

佐久大学看護学部オープンキャンパス参加者アンケート分析からみえてきた開催時期による参加者の傾向

著者	二神 真理子, 関本 真奈美, 桶田 真吾, 中田 覚子, 喜多村 定子, 塩入 とも子, 森本 彩, 土屋 道成, 朴 相俊, 吉田 文子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	12
号	2
ページ	185-191
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1050/00000266/



活動報告

佐久大学看護学部オープンキャンパス 参加者アンケート分析からみえてきた 開催時期による参加者の傾向

Saku University School of Nursing Open Campus
Participant Trends According to the Time of Event as Seen
from Participant Questionnaire Analysis

二神 真理子^{*1} 関本 真奈美^{*1} 桶田 真吾^{*2} 中田 覚子^{*1} 喜多村 定子^{*1}
塩入 とも子^{*1} 森本 彩^{*1} 土屋 道成^{*2} 朴 相俊^{*1} 吉田 文子^{*1}

Mariko Futagami, Manami Sekimoto, Shingo Okeda,
Satoko Nakata, Sadako Kitamura, Tomoko Shioiri, Aya Morimoto,
Michinari Tsuchiya, Sangjun Park, Fumiko Yoshida

キーワード：看護大学オープンキャンパス, アンケート調査, 高校生, 進路

Key words : Undergraduate of nursing Open Campus, Questionnaire survey,
High school student, Future course

要旨

オープンキャンパスは、大学や専門学校が入学を考慮している者に対し、施設の構造や機能だけでなく、授業や学生生活、大学の雰囲気を含め、来場者が入学後の自分を想像できることを目的としている。本活動報告では、開催時期による佐久大学看護学部オープンキャンパス参加者の傾向を明らかにし、参加者のニーズに沿った企画・運営を検討することを目的に、看護学部のオープンキャンパス参加者アンケートを分析した。対象は3回のオープンキャンパスに参加者した171名中アンケートに協力した計156名で、オープンキャンパス開催の情報収集、参加動機等を尋ね、分析は記述統計を行った。7月8月に比べ、6月のオープンキャンパス参加者は、他大学との比較のために高校3年生が参加している割合が多く、7月8月に比べると他府県からの参加割合が多かった。6月のオープンキャンパスでは、佐久地域で学べる佐久大学の魅力を伝え、高校3年生が佐久大学への進学志望を決意できるようプログラムを工夫していく必要がある。

受付日 2019年10月1日 受理日 2020年1月21日

*1 佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

*2 佐久大学 Saku University Admissions and Public Relations Division

I. 緒言

平成3年に11校だった看護系大学は平成30年度には263校まで増え(文部科学省, 2018)、その数は増加の一途を辿っている。その背後には、団塊の世代が後期高齢者となる2025年の看護師需要の急増に備え、国が養成促進に取り組んだことと、不況による就職難から就職率の高さを誇る看護系大学が選ばれる受験者のニーズが一致したことが関連しているといえる。しかし、看護系大学を志願する受験者の大都市思考が強いこと(私学経営情報センター私学情報室, 2019)と、少子化は進んでいる中での受験者数の必然的な減少などにより、地域の看護系大学の志願者確保は今後より一層厳しくなる状況として理解できる。

そのような中、ほとんどの国公立大学において学生募集を目的としたオープンキャンパスプログラムを企画し、開催しているのが現状である。オープンキャンパスとは、大学や専門学校が入学を考慮している者に対し、施設内を公開し、入学意欲を深めてもらうとするイベントである。また、施設の構造や機能だけでなく、授業や学生生活、大学の雰囲気を含め、来場者が入学後の自分を想像できるように、教職員や所属する学生が一丸となって対応するような企画である。

佐久大学看護学部オープンキャンパス(以後、オープンキャンパス)は、平成20年度に開始されてから今年で12年目を迎える。その内容は、大学概要の説明、進学相談、模擬授業、看護体験、施設見学、ランチ体験、実習施設見学等があり、また、2018年からは高校生との交流を増やすため、ワークショッププログラムを取り入れている。これは他大学ではほとんど体験できない、佐久大学の特色ある企画である。さらに、2019年には今まで年3回だった回数を年7回に増やしなが、学生募集に向けて午前からの開催と午後

からの開催の2種類の形式で企画・運営してきた。しかし、このような大学運営に重要な役割を占めるオープンキャンパスの効果に対しての学術的な検討は行われておらず、過去に一件のみ報告がされているのが現状である。その報告においても「佐久大学オープンキャンパスは学生の自律性を伸ばす機会になっている(橋本, 鈴木, 田中, 堀内, キシ, 2011)」ことの報告に留まっており、オープンキャンパス参加者の満足度や参加動機についての、より詳細な分析が求められる。オープンキャンパスに参加した人の進学を決める上で必要とされているニーズや課題を把握することは、よりたくさんの学生が集まり、大学運営においても役立つ有効なオープンキャンパスの企画運営と志願者確保に貢献できると考えられる。

そこで本活動報告においては、開催時期によるオープンキャンパス参加者の傾向を明らかにし、参加者のニーズに沿った企画・運営を検討することを目的に、オープンキャンパス参加者アンケートを分析しその結果を報告する。なお、本報告においては、午前開催と午後開催のオープンキャンパスは内容が異なるため、今回は「ワークショップ」「在学生卒業生の声を聞く」「看護体験&施設見学」の3つのプログラムをメインとした午後からのオープンキャンパス(3回開催)に限って分析を行った。

II. 方法

1. アンケート実施時期

2019年6月22日、7月20日、8月24日の計3回

2. 対象

同伴する保護者を除くオープンキャンパス参加者(以下、参加者とする)

3. アンケート内容

オープンキャンパス開催の情報収集、参加動機、オープンキャンパスの満足度(各プログラムと全体)、佐久大学への入学意欲、志望大学決定条件等である。オープンキャンパス開催の情報収集と参加動機は複数回答とした。回収方法として、受付時に無記名の自記式アンケートを配布し、参加者が帰る際に記念品と引き換えに回収した。

4. 分析方法

記述統計を実施し、開催時期による参加者の特徴をみるため、開催月と各質問項目との関係性について χ^2 検定を用いた独立性の検定を行った。満足度は、「そう思う」「ややそう思う」と「あまり思わない」「思わない」の2群に分け、「わからない」の回答がある項目は「あまり思わない」「思わない」の群で分析した。入学意欲は「そう思う」「ややそう思う」と「あまり思わない」「思わない」「どちらともいえない」の2群に分けて分析した。解析はSPSS Statistics 26を用い、有意水準5%とした。

5. 倫理的配慮

本活動報告は、二次データを利用して分析した研究である。佐久大学入試広報課から提供されたデータには回答者の住所や氏名などの個人を特定する情報は含まれていないこと、また、アンケート実施時に参加者には大学の広報活動の質向上のために使用することを文書で説明を行っている。

Ⅲ. 結果

1. オープンキャンパスの概要

参加者は、開会の挨拶・大学の概要説明・オープンキャンパスの説明を受けた後に「ワークショップ」、「在学生・卒業生の声を聞く」「看護体験&施設見学」、の3つのプログラムに分かれて参加している(表1)。「ワークショップ」と「看護体験&施設見学」のプログラムはオープンキャンパス申し込み時に参加者へ希望をとり、定員となった時点で、定員に余裕のあるプログラムへ案内している。3回のオープンキャンパスに参加した171名中156名の参加者からアンケートを回収した(回収率91.2%)。

2. 参加者の属性

性別は男性21名(13.5%)女性133名(85.3%)で、学年は高校1年生6名(3.8%)、高校2年生60名(38.5%)、高校3年生89名(57.1%)であった。居住地は佐久市内23名(14.7%)、長野県内99名(63.5%)、他府県9名(5.8%)であった。出身校は、東信68名(47.2%)、北信41名(28.5%)、中・南信21名(14.6%)、県外14名(9.7%)であった。

3. オープンキャンパス開催の情報収集と志望大学決定条件(表2)

オープンキャンパス開催の情報収集「佐久大学のオープンキャンパスをどのように知ったか」の質問には、「佐久大学ホームページ」と答えた割合は最も多く、6月14名(70.0%)、

表1 2019年 オープンキャンパスプログラム

13:00	受付開始		
13:30~13:50	開会・全体説明会		
13:50~14:00	オープンキャンパスプログラムの説明		
14:10~15:30	講義&ワークショップ体験	在学生・卒業生の声を聞く	看護体験&施設見学
15:30~16:00	個別相談 ※自由参加(入試、キャンパスライフ、カリキュラム、奨学金など)		

note. 講義テーマ&ワークショップ体験(6月: 体の神秘、その機能を知る、7月: 佐久地域の保健医療を知る、8月: 国際社会の現状と看護を知る)

表2 2019年オープンキャンパス開催の情報収集と志望大学決定条件(複数回答)

項目		6月 (n=20)		7月 (n=64)		8月 (n=72)		合計 (n=156)	
		n	%	n	%	n	%	n	%
佐久大学 開催情報 の確認 媒体	佐久大学ホームページ	14	70.0%	37	57.8%	41	56.9%	92	59.0%
	大学パンフレット	8	40.0%	13	20.3%	16	22.2%	37	23.7%
	ご家族	5	25.0%	9	14.1%	11	15.3%	25	16.0%
	高校の先生	1	5.0%	6	9.4%	9	12.5%	16	10.3%
	進学相談会・大学説明会	2	10.0%	4	6.3%	8	11.1%	14	9.0%
	チラシ	1	5.0%	7	10.9%	3	4.2%	11	7.1%
	進学情報サイト	0	0.0%	4	6.3%	6	8.3%	10	6.4%
	その他	0	0.0%	4	6.3%	2	2.8%	6	3.8%
	新聞等の広告	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	0.6%
	Twitter／facebook等のSNS	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
志望大学を 決定する 条件	看護師国家試験受験資格が得られる	14	70.0%	49	76.6%	45	62.5%	108	69.2%
	自分の学力	12	60.0%	21	32.8%	32	44.4%	65	41.7%
	自宅から通学できる	4	20.0%	26	40.6%	21	29.2%	51	32.7%
	学費	8	40.0%	20	31.3%	23	31.9%	51	32.7%
	国家試験合格率	5	25.0%	24	37.5%	20	27.8%	49	31.4%
	カリキュラムなどの教育内容の充実	2	10.0%	24	37.5%	23	31.9%	49	31.4%
	実習施設	8	40.0%	16	25.0%	20	27.8%	44	28.2%
	保健師国家試験受験資格が得られる	5	25.0%	17	26.6%	15	20.8%	37	23.7%
	助産師国家試験受験資格が得られる	4	20.0%	12	18.8%	21	29.2%	37	23.7%
	就職率	2	10.0%	18	28.1%	17	23.6%	37	23.7%
	オープンキャンパスに参加して	4	20.0%	14	21.9%	14	19.4%	32	20.5%
	奨学金の充実	6	30.0%	10	15.6%	13	18.1%	29	18.6%
	一人暮らしができる	4	20.0%	9	14.1%	6	8.3%	19	12.2%
	設置主体(国公立・私立など)	4	20.0%	7	10.9%	7	9.7%	18	11.5%
	キャンパス周辺の環境	2	10.0%	7	10.9%	7	9.7%	16	10.3%
	サークル活動	1	5.0%	4	6.3%	4	5.6%	9	5.8%
	周囲の人々のすすめ	2	10.0%	2	3.1%	2	2.8%	6	3.8%
	その他	2	10.0%	1	1.6%	1	1.4%	4	2.6%

note. 複数回答のため、各月の合計は100%を超える

7月37名(57.8%)、8月41名(56.9%)、計92名(59.0%)であった。志望大学決定条件「志望大学を決定する時の条件は何ですか」は「看護師国家試験受験資格が得られる」が最も多く、6月14名(70.0%)、7月49名(76.6%)、8月45名(62.5%)、計108名(69.2%)であった。「オープンキャンパスに参加して」を、志望大学を決定する条件の一つとする参加者は、全体で32名(20.5%)に過ぎなかった。

4. オープンキャンパスへの参加動機、満足度、佐久大学への入学意欲(表3)

参加動機「オープンキャンパスに参加する目的は何ですか」は、「他大学との比較」が最

も多く、6月17名(85.0%)、7月31名(49.2%)、8月38名(52.8%)、計86名(55.5%)であった。オープンキャンパス全体の満足度「本日のオープンキャンパスは満足できましたか」への回答は、「そう思う」6月15名(75.0%)、7月49名(76.6%)、8月56名(96.6%)であった。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、各回9割以上が満足できていた。佐久大学への入学意欲「佐久大学に入学してみたいと思いましたか」への回答は、「そう思う」6月8名(44.4%)、7月34名(54.8%)、8月29名(42.0%)であった。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると6月16名(88.8%)、7月57名(91.9%)、8月60名(86.9%)であった。

5. 参加者の属性、参加動機、満足度の月別比較(表4)

開催時期と各回答との関連は、「学年」「居住地」「出身校」「参加動機」で見られた。「学年」は、7月は高校3年生が49名(76.6%)と最

も多く、高校2年生15名(23.4%)、高校1年生0名(0.0%)と少なかったのに対し、8月は高校3年生が26名(36.6%)に減少する一方、高校2年生39名(54.9%)と1年生6名(8.5%)は増加し、有意差が見られた($p<0.01$)。「居

表3 2019年度オープンキャンパスへの参加動機、満足度、教職員の対応、入学意欲

項目	6月 (n=20)		7月 (n=63)		8月 (n=72)		合計 (n=155)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
オープンキャンパスの参加目的(参加動機)								
他大学との比較	17	85.0%	31	49.2%	38	52.8%	86	55.5%
佐久大学への進学	3	15.0%	32	50.8%	29	40.3%	64	41.3%
高校の課題	0	0.0%	0	0.0%	4	5.6%	4	2.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	0.6%
オープンキャンパスの参加満足度								
そう思う	15	75.0%	49	76.6%	56	96.6%	120	84.5%
ややそう思う	4	20.0%	12	18.8%	2	3.4%	18	12.7%
あまり思わない	1	5.0%	1	1.6%	0	0.0%	2	1.4%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	2	3.1%	0	0.0%	2	1.4%
模擬授業・ワークショップの有意義評価※								
そう思う	4	100.0%	26	96.3%	28	93.3%	58	95.1%
ややそう思う	0	0.0%	1	3.7%	2	6.7%	3	4.9%
あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
看護体験の有意義評価※								
そう思う	6	75.0%	30	93.8%	28	100.0%	64	94.1%
ややそう思う	2	25.0%	2	6.3%	0	0.0%	4	5.9%
あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
在学生・卒業生の声を聴くの有意義評価※								
そう思う	7	87.5%	19	90.5%	19	86.4%	45	88.2%
ややそう思う	1	12.5%	2	9.5%	3	13.6%	6	11.8%
あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
在学生・教職員の対応								
大変満足	14	73.7%	44	72.1%	51	72.9%	109	72.7%
満足	2	10.5%	16	26.2%	17	24.3%	35	23.3%
ふつう	2	10.5%	1	1.6%	2	2.9%	5	3.3%
やや不満	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
オープンキャンパスに参加後の入学意欲								
そう思う	8	44.4%	34	54.8%	29	42.0%	71	47.7%
ややそう思う	8	44.4%	23	37.1%	31	44.9%	62	41.6%
どちらともいえない	2	11.1%	4	6.5%	9	13.0%	15	10.1%
あまり思わない	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	1	0.7%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

note. ※プログラムへの参加者のみ回答

表4 2019年オープンキャンパス参加者の属性、参加動機、満足度などの月別比較

項目		6月		7月		8月		p 値
		n	%	n	%	n	%	
学年 (n = 155)	1 年	0	0.0%	0	0.0%	6	8.5%	0.001
	2 年	6	30.0%	15	23.4%	39	54.9%	
	3 年	14	70.0%	49	76.6%	26	36.6%	
性別 (n = 154)	男性	3	15.8%	10	15.6%	8	11.3%	0.731
	女性	16	84.2%	54	84.4%	63	88.7%	
居住地 (n = 131)	佐久市内	1	6.3%	15	27.8%	7	11.5%	0.034
	長野県内	12	75.0%	37	68.5%	50	82.0%	
	他府県	3	18.8%	2	3.7%	4	6.6%	
出身校 (n = 144)	東信	11	55.0%	32	52.5%	25	39.7%	0.042
	北信	1	5.0%	16	26.2%	24	38.1%	
	中・南信	3	15.0%	9	14.8%	9	14.3%	
	県外	5	25.0%	4	6.6%	5	7.9%	
参加動機 (n = 155)	佐久大学への進学	3	15.0%	32	50.8%	29	40.3%	0.007
	他大学との比較	17	85.0%	31	49.2%	38	52.8%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	5	6.9%	
オープンキャンパス満足度 (n = 140)	思う	19	95.0%	61	98.4%	58	100.0%	0.264
	思わない	1	5.0%	1	1.6%	0	0.0%	
入学意欲 (n = 134)	思う	16	100.0%	57	98.3%	60	100.0%	0.517
	思わない	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	

note. 無回答・無効回答を除く。数値は、人数と割合を示す。群間の比較において、 χ^2 検定より算出

住地」は、6月は「他府県」の割合が7月8月に比べ3名(18.8%)と多かったが、7月は「佐久市内」15名(27.8%)が増加し、有意差が見られた($p < 0.05$)。「出身校」は、6月は県外の高校生の割合が5名(25.0%)と多く、8月は北信の高校生が24名(38.1%)と多く、有意差が見られた($p < 0.05$)。「参加動機」の「他大学との比較」は6月が17名(85.0%)と多く、「佐久大学への進学」が3名(15.0%)と少なかったのに対し、7月は「佐久大学への進学」が32名(50.8%)と増え、有意差が見られた($p < 0.01$)。

Ⅳ. 考察

本学オープンキャンパス開催時期ごとに参加者の背景や特徴が異なることが明らかとなった。

まず、開催時期による参加者の傾向とオープンキャンパスの企画・運営については、6月の特徴として、高校3年生が多いことと他

大学との比較をするために参加する者が多いことである。7月に入ると高校2年生の参加が増え、他大学と比較するよりも佐久大学への進学目的で参加している者が多い。高校2年生に比して高校3年生の参加が少ないのは、高校3年生がこの時期までに志望校を絞っていたり、他大学との比較を終え受験勉強にシフトしているため、8月の高校3年生の参加者が少ないと考えられる。その年の受験者数を確保するためには、6月までのオープンキャンパスで他大学にはない佐久大学の特長を高校生にわかりやすく伝える努力をし、かつ入学意欲に影響を与える要因を知る必要がある。6月は他府県からの参加割合も多いため、長野県の魅力を伝えつつ佐久の地域で看護を学べる佐久大学の特徴が十分伝わる内容を各プログラムに入れ込むことが重要である。

一方、7月のオープンキャンパスはすでに佐久大学を志望する参加者が多いこと、佐久市内の参加者が多いことから、地域の魅力の

発信よりも入試対策等の説明時間の確保を意識し、進学希望を固められるよう対応していく。8月の参加者で最も多いのは高校1年生である。そのため、8月以降のオープンキャンパスでは、1・2年生のための受験対策講座を開くなど低学年を意識するプログラムや看護の分野をイメージできるようなプログラムを重視していくと良いと考える。シミュレーターを用いた静脈採血などの技術体験はオープンキャンパス参加者の満足度が高い(増成ら, 2014)ことから、高校のキャリア教育や看護一日体験などでは体験できないことを取り入れたプログラムを企画・運営していく必要がある。

次に、オープンキャンパス開催の情報収集の現状と効果的な広報活動についてであるが、参加者は、オープンキャンパス開催の情報を「佐久大学ホームページ」、「大学案内」の順に活用していた。「大学案内」は年度ごとの作成となるため、年度途中での変更が難しい。しかし、ホームページであれば新たな情報の更新が随時可能である。多くの参加者が佐久大学のホームページから情報を入手している現状を踏まえると、ホームページをより充実させていくことが重要である。すでに2019年度に佐久大学のホームページは全面的なリニューアルがされたが、佐久大学の魅力を伝えていくツールとして最大限活用していく必要がある。

3回のオープンキャンパスへの満足度に「そう思う」と回答した参加者は7～9割と高いが、佐久大学への入学意欲に「そう思う」と回答した参加者は4～5割であった。今後、開催時期別の参加者のニーズに沿ったオープンキャンパスのプログラムを企画・運営し、佐久大学への進学志望を決意できるよう、プログラムを工夫していくことが重要である。

今回は3回のオープンキャンパスを分析し

たが、その他の4回分のオープンキャンパスも含めて開催時期による属性の検討を行ったり、今後、入学意欲に影響を与える要因を調査・分析していくことが必要である。

V. 結語

7月と8月に比べ、6月のオープンキャンパス参加者は、他大学との比較のために高校3年生が参加している割合が多く、他府県からの参加割合も多いことが明らかとなった。また、6月のオープンキャンパスでは、長野県、佐久地域で学べる佐久大学の魅力を伝え、高校3年生が佐久大学への進学志望を決意できるようオープンキャンパスのプログラムを工夫する必要があることが示唆された。

文献

- 橋本佳美, 鈴木真理子, 田中高政, 堀内ふき, キシケイコイマイ (2011). インフォーマルな大学教育としてのオープンキャンパス—学生の社会性育成のために. 佐久大学看護研究雑誌, 3(1), 53-60.
- 平成31(2019)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向, 私学経営情報センター私学情報室, 2019/9/17, <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>
- 増成暁彦, 武島玲子, 黒田暢子, 岩本浩二, 伊藤文香, 大久保知幸, ……大澤侑一 (2014). 2013年度オープンキャンパスでのIPUあいらば参加者を対象としたアンケート調査. 茨城県立医療大学紀要, 19, 151-160.
- 文部科学大臣指定(認定)医療関係技術者養成学校一覧, 文部科学省, 2019/9/17, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1353401.html